

内外の化学繊維生産動向

- 2010年 -

2011年1月19日
日本化学繊維協会

本資料の2010年の数値は、至近の発表値をもとに日本化学繊維協会
で推定したものです。

1 . 世界の繊維生産

表-1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

	全繊維	化学繊維		綿	羊毛	絹	
		合繊	セルロース				
2004	61,689	34,149	31,694	2,456	26,204	1,220	115
2005	60,204	34,455	31,863	2,593	24,398	1,218	133
2006	65,820	37,805	35,103	2,703	26,635	1,234	145
2007	68,954	41,566	38,339	3,227	26,030	1,202	156
2008	64,453	39,705	36,864	2,842	23,400	1,200	148
2009	64,987	41,810	38,739	3,072	21,896	1,140	141
2010	72,297	46,564	43,280	3,284	24,473	1,118	142
10/09(%)	11.2	11.4	11.7	6.9	11.8	-1.9	0.6
構成比(%)	100.0	64.4	59.9	4.5	33.9	1.5	0.2

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

- 2010年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比11%増の7,230万トであった。綿は12%増、化学繊維は11%増といずれも増加した。
- 天然繊維は、綿が12%増と4年ぶりの増加となる見込み。インド、ブラジル、米国、ウズベキスタンの生産が増加する一方、中国、パキスタンは減少。羊毛は、最大生産国のオーストラリアの減少が続き、世界全体では2%減となる見通し。
- 化学繊維は前年比11%増の4,660万ト。うち合繊（オレフィン繊維を除く）は12%増の4,330万ト。セルロース繊維（アセテートトウを除く）は7%増の330万ト。
- 化学繊維の生産は、2009年後半からの回復基調が継続し、2007年以来3年ぶりの2桁増となった。繊維全体に占める化学繊維のシェアは64%と前年比横ばい。

図-1 世界の主要繊維の生産

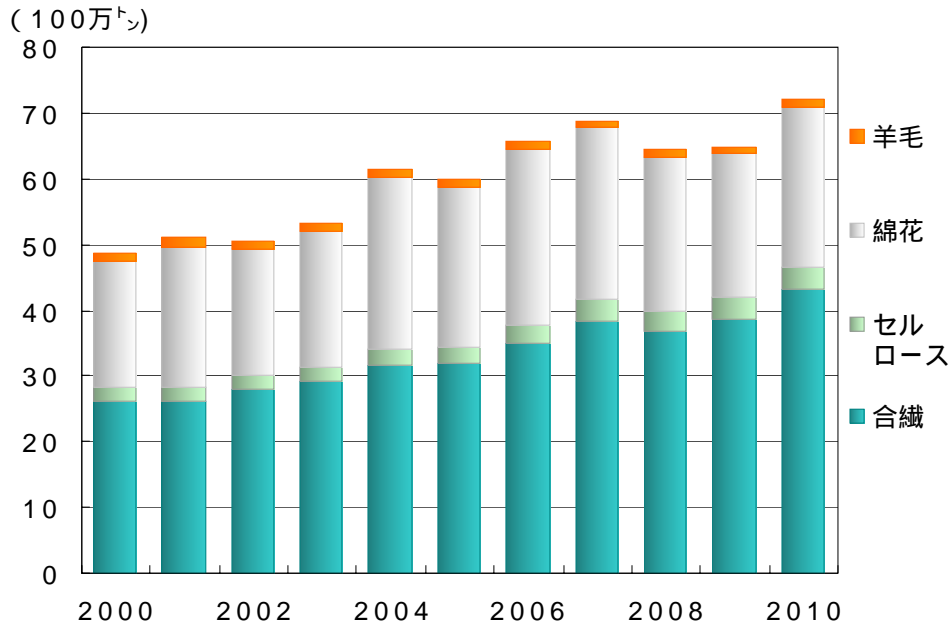
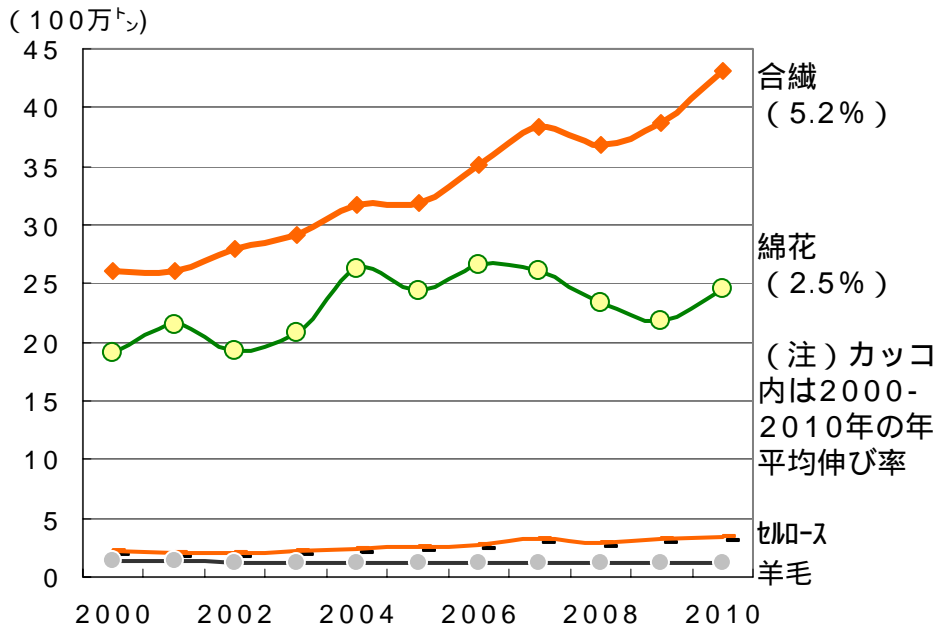


図-2 世界の主要繊維の生産推移



2. 世界の化学繊維生産

- 主要国・地域別に化学繊維生産をみると、中国は内需の好調から前年比14%増と大幅に増加した。その他の主要国・地域も軒並み増加した。一方で、インドは0.5%増と横ばい。

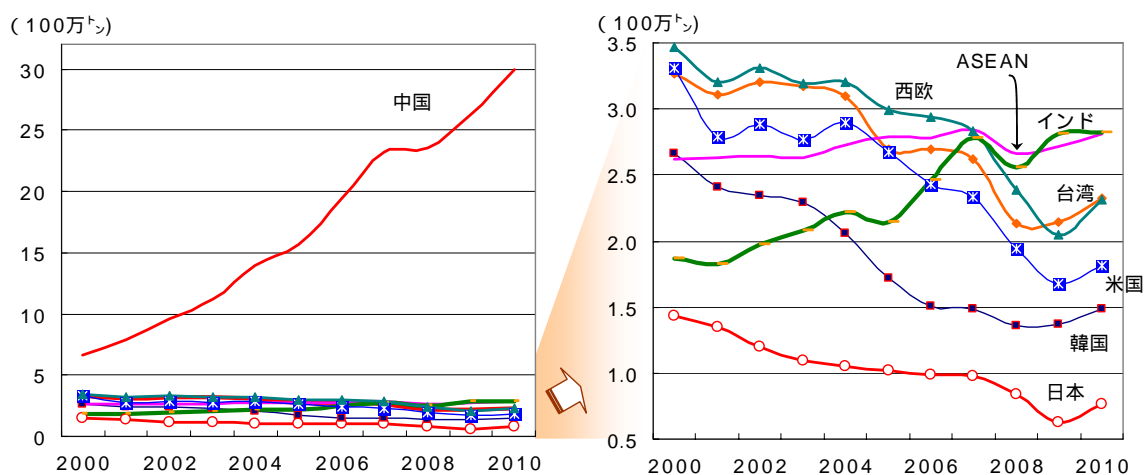
表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2010年)

地域	ポリエステル		ナイロン S+F	アクリル S	合 織 計	セルロース 計	化 織 計	構成比 (%)
	フィラメント	スチープル						
日 本	188	156	94	142	702	63	765	1.6
	15.2	6.5	25.5	14.7	23.3	8.5	21.9	
韓 国	748	527	135	50	1,479	5	1,485	3.2
	11.5	5.0	2.1	23.3	8.4	2.0	8.4	
台 湾	1,115	602	388	98	2,225	100	2,325	5.0
	9.4	5.6	25.4	-12.4	9.5	-5.2	8.7	
中 国	16,789	8,695	1,617	663	28,092	1,881	29,974	64.4
	18.6	10.2	12.0	-6.0	14.6	9.0	14.2	
ASEAN	1,301	904	90	93	2,388	419	2,807	6.0
	3.8	3.1	1.3	1.0	2.9	5.0	3.2	
インド	1,443	874	97	71	2,486	338	2,824	6.1
	0.2	1.3	12.0	-23.0	0.1	3.0	0.5	
米 国	470	588	628	0	1,805	15	1,819	3.9
	24.8	11.5	-1.5	0.0	8.7	-12.9	8.5	
西 欧	428	475	385	572	1,906	410	2,316	5.0
	26.6	27.7	5.5	4.1	14.1	8.5	13.1	
世界計	22,938	13,822	3,874	1,986	43,280	3,284	46,564	100.0
	15.5	8.8	8.3	0.2	11.7	6.9	11.4	

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

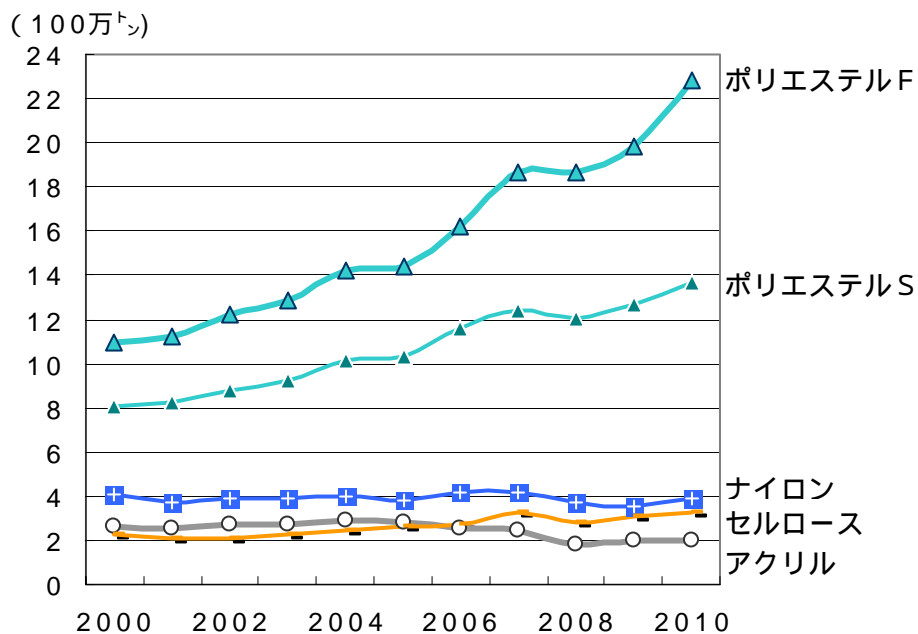
- 中国は3,000万トンの大台にほぼ達した。中国の世界生産に占める割合は前年の63%から2010年は64%に拡大、一極集中が進行した。

図-3 世界の主要国・地域の化織生産



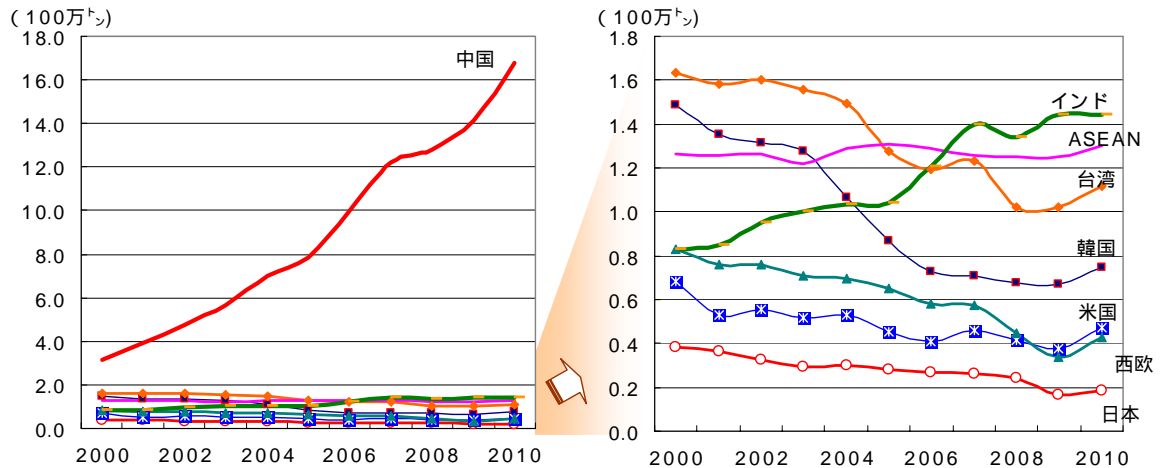
- 韓国はポリエステルFの回復に牽引されて8%増。台湾は9%増と2年連続の生産増となった。ASEANは総じて増加し、全体で3%増。米国は産業用・カーペット用ポリエステルFの好調により、化繊全体で9%増と6年ぶりに増加した。西欧もポリエステルの大幅な回復により13%増と6年ぶりに前年を上回った。
- 主要品種別では、ポリエステルは、フィラメントが前年比16%増の2,290万ト、ステープルが9%増の1,380万トであった。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は79%と2009年から微増。
- ナイロンは8%増の387万トで、4年ぶりに増加。フィラメントは10%増、ステープルは17%減。
- アクリルSは横ばいの199万ト。主要生産国の中国が6%減となったほか、台湾、インドも減少した。セルロース繊維は、フィラメント、ステープルのいずれも増加し、全体では7%増の328万トであった。

図-4 世界の主要化繊品種の生産推移



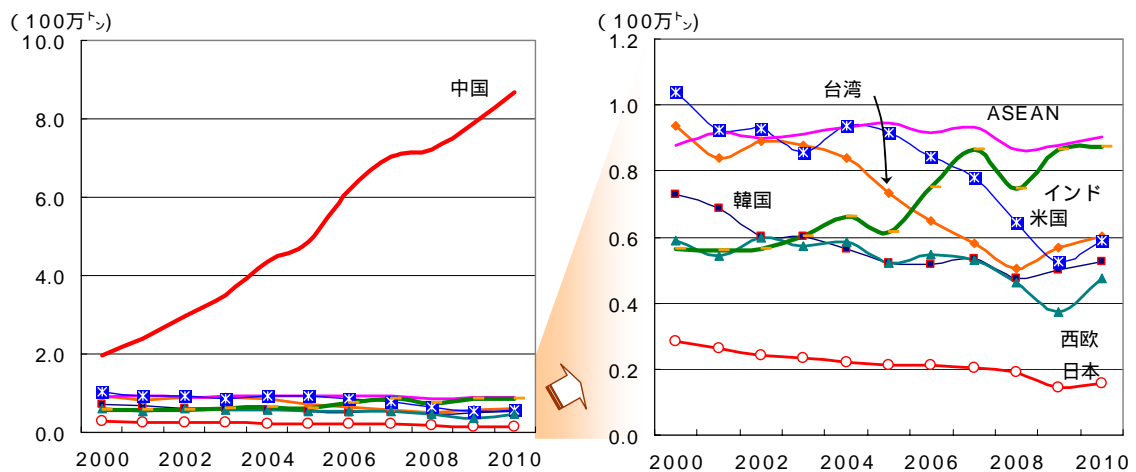
- ポリエステルF：前年比16%増の2,290万トと2,000万ト台に乗った。世界の73%を生産する中国が19%増と大幅増を続けた一方、インドは横ばい(0.2%増)。西欧が27%増、米国が産業用・カーペット用の好調で25%増、日本15%増、韓国12%増、台湾9%増、ASEAN4%増と軒並み増加した。

図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



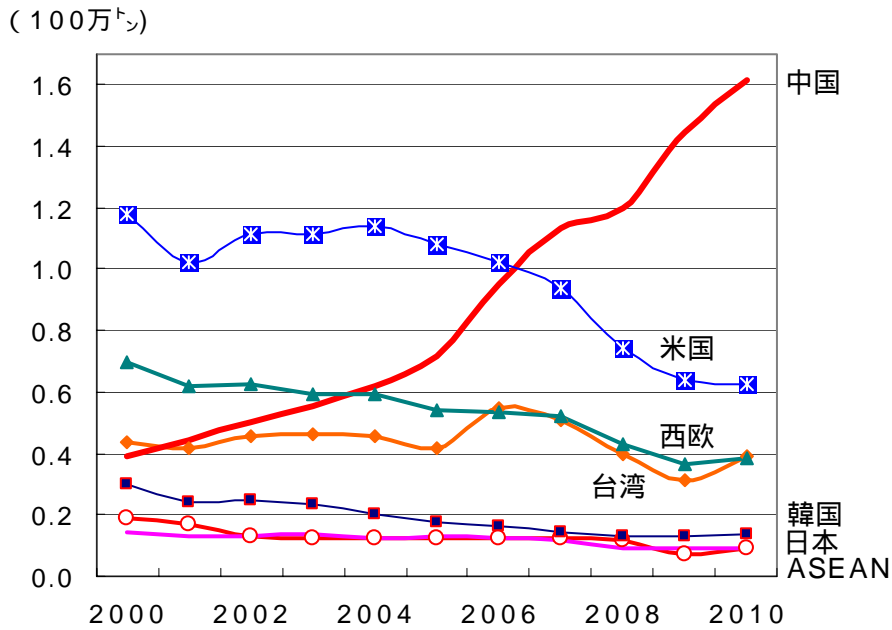
- ポリエステルS**：前年比9%増の1,380万ト。中国が10%増と2年連続の2桁増となった一方、インドは1%増に留まった。西欧28%増、米国12%増とそれぞれ2桁増で回復したほか、日本（7%増）、台湾（6%増）、韓国（5%増）、ASEAN（3%増）も増加した。

図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



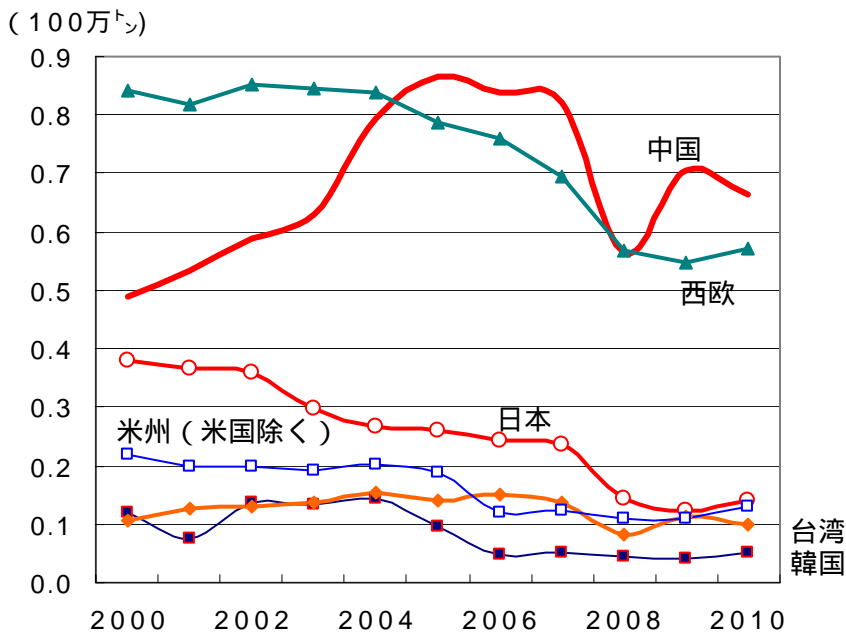
- ナイロン**：前年比8%増の387万ト。中国が12%増の162万トと大幅に増加したほか、台湾（25%増）、日本（26%増）も2桁増となった。その他、西欧6%増、韓国2%増と増加したが、ASEAN（1%増）は横ばい。米国はカーペット用の回復でフィラメントは増加したが、ステープルが前年比ほぼ半減し、全体では2%減と6年連続の前年割れとなった。

図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



- アクリルS：前年比0.2%増と横ばいの199万ト。中国が6%減となったほか、台湾（12%減）、インド（23%減）も減少した。一方、西欧は4%増で8年ぶりに増加、日本も15%増となった。韓国は23%増、ASEANは1%増であった。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



(注) 日本は2000年のみフィラメントを含む

3 . 日本の化学繊維生産

- 2010年の日本の化学繊維生産は前年比18%増の98.4万ト(推定・オレフィン、アセテートを含む)と大幅に増加したものの、リーマンショック前の水準であった100万トの大台には届かなかった。内訳では合繊が20%増、セルロース繊維が9%増といずれも増加した。

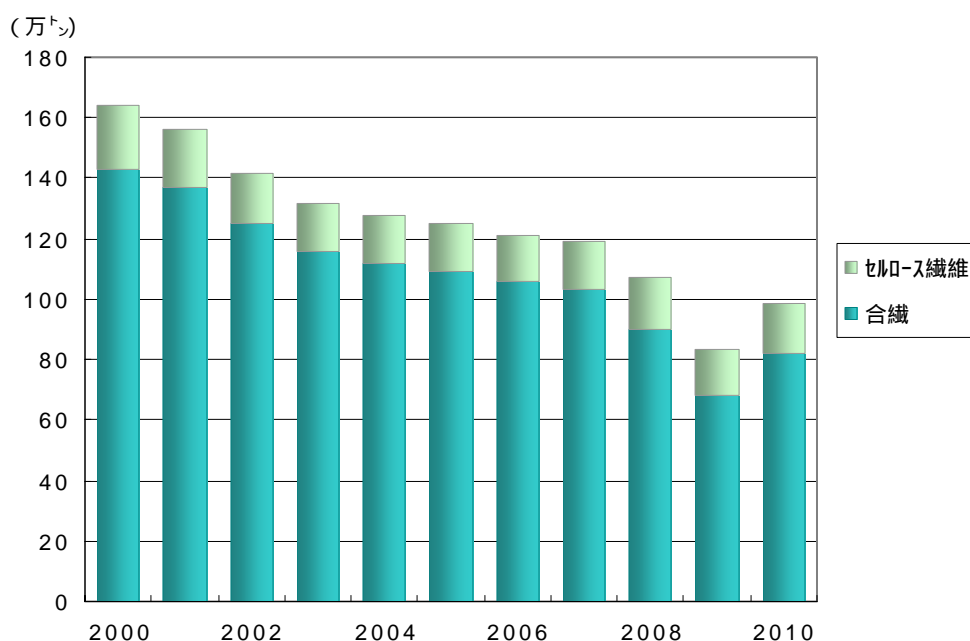
表-3 日本の主要化学繊維の生産

	2007	2008	2009	2010	10/09%
ポリエステルF	261.6	243.6	163.0	187.7	15.2
ポリエステルS	203.8	191.0	146.2	155.7	6.5
ナイロンF	116.5	112.0	73.6	92.8	26.1
アクリルS	236.4	145.0	123.6	141.7	14.7
ポリプロピレン	126.6	125.3	107.3	115.6	7.7
合繊計	1,034.6	902.0	682.3	817.7	19.8
レーヨンS	41.4	39.3	35.5	33.3	-6.4
アセテート	101.1	113.6	104.3	115.1	10.3
セルロース計	158.3	168.9	152.5	166.4	9.1
化繊計	1,192.8	1,070.9	834.8	984.1	17.9

(出所) 経済産業省。10年は推定値。

(注) オレフィン、アセテートを含む。

図-9 日本の化繊生産



- 合成繊維の生産は同20%増の81.8万トと2000年以来、10年ぶりに前年を上回った。規模は80万ト台に回復したが、2008年比では10%減、2000年比では40%減の水準。前年の反動からナイ

ロンFが26%増、ポリエステルFおよびアクリルSが15%増とい
 ずれも2桁増。ポリエステルSは7%増となった。

- セルロース繊維の生産は16.6万トと9%増。輸出の好調でアセテ
 ートSが10.8万トと10%増だが、レーヨンSは3.3万トと6%減で
 3年連続の減少。セルロースF（アセレートF+キュプラF）は2.3万
 トと29%増。

図-10 日本の主要化繊生産

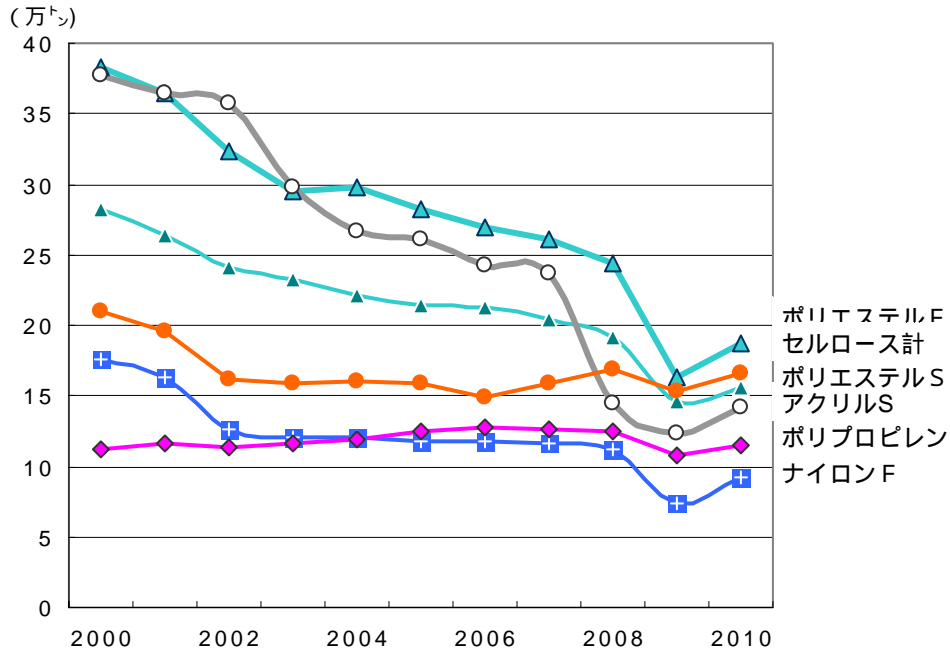


図-11 日本の主要セルロース繊維生産

